

(学校番号233)

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【春里中学校】

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題> 令和5年度さいたま市学習状況調査の知識・技能の学校平均正答率が、市平均正答率を下回っている教科が学年問わず多くを占めている。 <指導上の課題> 生徒が自ら学びを振り返る時間を確保できていない。	⇒ ・「ドリルパーク」「スタディサプリ」等を活用し、基本的な計算等の反復に取り組むことにより「個別最適な学び」を推進する。 ・毎日の記録授業アンケートを活用し、生徒の学習習慣の定着を図る。
思考・判断・表現	<学習上の課題> 学習に対して意欲的ではない場面が見られる。 <指導上の課題> 生徒主体の学びとなるような授業が少ない。	⇒ ・定期テスト前に学習会や質問会を設け、学習スペースによる自主学習を促す。 ・家庭学習において、スタディサプリやドリルパークの活用を促す。 ・「学びの指標」において「主体的な学び」の項目を、年度内調査において向上させる。

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語「漢字を書く」問題において全国平均の7%高く、日頃から授業内テストを繰り返し行っていることの成果であると考えられる。その一方、「短歌に用いられている表現の技法を説明したものとして適切なものを選択する」問題において課題がみられた。短歌で歌われている情景を正しく理解し、作者の心情を理解するという学習の過程が重要だと考えられる。数学では、「車型ロボットについて、障害物からの距離の設定を変えて調べたデータの分布から、四分位範囲について読み取れることとして正しいものを選ぶ」問題文と箱ひげ図の結びつきの理解を高めることが重要だと考えられる。
思考・判断・表現	国語では「話し合いの話題や発言を踏まえ、「これからどのように本を選びたいか」について自分の考えを書く」問題において課題がみられた。全国平均を4ポイント上回る結果となっているが、無回答率9%と他の問題と比べて高いことから文章の組み立て方を理解していないため、書き始めることができないことが原因の一つだと考えられる。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	「ドリルパーク」「スタディサプリ」は、今年度意識的に活用することにより、月次アクティブ率が、全国や市の平均を上回る月ができた。毎日の記録授業アンケートでは、毎日打ち込む時間を学校で設定し、活用することができた。	変更なし。
思考・判断・表現	B	定期テスト前への学習会や質問会を行っているものの、毎回同じようなメンバーのみが参加している実態があるので、より多くの生徒が参加するように引き続き声かけを行っていく。また夏休みの宿題にスタディサプリを積極的に活用することができた。家庭学習が習慣になるよう引き続き活用を進めていく。	変更なし。

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

⑤	評価(※)	授業改善策の達成状況
知識・技能		
思考・判断・表現		

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	
思考・判断・表現	

※評価  
A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)